

平成27年度 五泉市教育課程部 活動報告

部長 齋藤 大祐

1 研究主題

学校評価を生かした教育課程づくりの工夫について情報交換を図る。

2 研究の概要

市内の小学校数は平成27年度より1校減り9校となった。各校とも地域の特色を生かした学校づくりが進められている。各校の学校評価の方法と結果を情報交換することにより、自校の教育活動の改善に生かすことをねらいとしている。

3 研究の実際

第1回部会 年間計画作り

第2回部会 事例検討会「学校評価の課題と改善策」五泉南小学校 波田野伸樹

学校評価は、自校の教育目標の達成に向けて取り組んでいる教育活動全般について評価し、教育活動の改善を図ることを目的に行う。このときに、教職員で自己点検・自己評価を行うだけでなく、児童や保護者、地域の声などを取り入れた評価とし、保護者・地域の期待と要望を取り入れた学校づくりのもととなることを意識して行っている。しかし、保護者や地域の声の全てに応えることは難しい。教職員の意識を統一させたり、やる気を増したりすることで児童・保護者・地域・教職員が手を取り合うことが大切になる。

そのなかで、教職員の意識の向上を図る3つの方策について情報交換した。

- ・教育目標について自己評価する時期を年間指導計画の中に設定する。
- ・チェックリストを作成し短い周期で反省と改善を行う。
- ・各行事の反省を次の行事に生かす。

第3回部会 各校の1学期の学校評価をどう生かしていくか。～各校より情報交換～

各校の評価は、学校便りや学年懇談会などで保護者へ紹介している。教職員だけで児童の成長を担うことはできないため、保護者とも情報を共有し、児童のために協力して育成を図ることが大切になる。そのため、保護者アンケートは今年度の教育目標の重点に関して具体的な場面に絞って質問している。評価の結果は成果と課題を学校便り等に明記し、学校の姿勢を情報提供する。そして、児童のよりよい成長や教育活動に生かしていきたいとの決意を伝えている。

第4回部会 地域連携の取り組みについて

～各校より情報交換～

地域と連携して教育活動をするもののメリットとして以下のことを確認した。

- ・「地域への愛着」「学校だけではできない体験活動」など、児童の体験をより豊かにすることができる。
- ・地域全体で児童を育てる風土づくりや、地域コミュニケーションの発信場所の一つとしての意識が向上できる。

しかし、地域コーディネーターなど地域と学校のつなぎ役となる人材の発掘や、校外活動への教職員の意識改革など、克服すべき課題もある。

4 成果と課題

(1) 成果 ○各校の学校評価について情報交換することで、特色ある教育を知ることができた。自校の教育活動への見直しの視点や、新規導入の可能性などを考えることで自校の教育課程を改善する視点をもつことができた。

(2) 課題 ○教務主任が果たす役割について考えることができたが、これまで以上に学校づくりへの参画意識を高めていく必要がある。管理職の移行をくみ、実際の教育活動を実践する際、学校目標の達成のために改善すべきことがないか一人一人が意識改革していく必要がある。